



広く一般に受け入れられるユニバーサルデザインを追求して開発された波佐見焼「普遍庵」。コシが強く型崩れを防ぐ新陶土を採用して開発。

## 目指したのは、広く一般に受け入れられるユニバーサルデザイン。

400余年の歴史を有し、日用飲食器としてピーク時には全国シェア約17%を占めた波佐見焼。しかし、近年では消費低迷が続いている。新たな販路拡大を目指し、波佐見焼の鑄込み成形を生かした量産体制と、新陶土から生まれたのが、「普遍庵」シリーズだ。企画段階でメインテーマになったのは、高齢化社会をにらんだユニバーサルデザイン。しかしそれに特化するのではなく、広く一般に受け入れられるデザイン性を追求した。デザインは、ユニバーサル

デザインを専門とする関東のデザイナーと提携して実施。窯元の経験値から、焼成で収縮する割合などを想定し、幾度となく試作を行った。これに大きく貢献したのが、独自に配合したコシの強い新陶土。持ち易さに配慮して縁に幅を設けた平皿などは、新陶土によってへたり（型崩れ）を防ぐことができた。

## 新社長の若い感性が伝統の陶磁器に新しい風を吹き込む。

また、一般に向けたユニバーサルデザインを追求するなかで、鉢や平皿などはスタッキング（積み重ね収納）機能も実現。さ

らに昨今の健康志向に配慮、「無鉛」「産地」を明示して販路拡大を目指す。すでに大手量販店からの引き合いもあり、今後は海外のギフトショーなどにも出展予定。平成19（2007）年4月に先代から会社を引き継いだ新社長の若い感性が、伝統の波佐見焼に新風を吹き込む。

（上）縁を幅広く設け、指を入れてすくい易い高さや角度を両立した平皿。成形段階ではコシの強い新陶土が型崩れ防止に貢献。（中）鉢や茶碗は、日本人の手の幅に合う高さで女性用から男性用まで数種類を企画。握力が弱い人も握らずに挟んで持つことができる角度、軽さを実現した。（下）ユニバーサルデザインを専門とするデザイナーと提携。

[長崎県・波佐見町]

## 波佐見焼の技術による新陶土を利用した 新商品「普遍庵」の開発

有限会社 陶芸ゆたか

一般市場に販路を求め、  
新陶土が実現させた  
ユニバーサルデザイン。

400余年の歴史を誇る波佐見焼だが、近年は生産、消費ともに低迷が続く。新たな販路を拓くために着目したのが、高齢化社会を視野に置いたユニバーサルデザインだ。ただし、それに特化したのでは市場が限られる。そのため広く一般に受け入れられるデザイン性を追求。シンブルでモダンなデザインが、伝統の陶磁器に新風を吹き込んだ。



○活用する地域資源：波佐見焼

Company Info.

## 伝統に学び、普遍の価値を生み出す、若い感性とチャレンジ精神。

先代が個人商店として昭和58（1983）年に設立し、平成元（1989）年法人化。商社として窯元と連携し、地域振興に貢献してきた。最近では窯元にも若返りが見られ、そうしたなかで平成19（2007）年4月、二代目新社長に田崎稔宏が就任。若い感性で「普遍庵」を構想し、ユニバーサルデザインに着目した。病院などを視察・見学しながら、広く一般に受け入れられるユニバーサルデザインに方向性を絞り、「普遍庵」誕生に至る。波佐見焼の鑄込み成形を生かした量産によりリーズナブルな市価も実現。



田崎稔宏さん／代表取締役社長。「新陶土と鑄込み成形を利用した『普遍庵』開発の道程は、チャレンジの連続。苦勞したけど、評判は上々です」と語る38歳。



有限会社 陶芸ゆたか

長崎県東彼杵郡波佐見町折敷瀬郷41-1  
TEL.0956-85-6566  
<http://www.togeiyutaka.com>